

## 〈費用対効果分析説明資料〉

事業名	ダム建設事業(河川総合開発事業)	地区名等	駒込ダム
-----	------------------	------	------

### [費用対効果算定内容]

#### 1. 費用対効果の算定根拠

算定については、『治水経済調査マニュアル(案)』(平成17年4月 国土交通省河川局)に基づき行った。

本マニュアルにおいては、経済評価するうえで洪水氾濫被害の防止効果を便益(B)とし、事業着手時点から完成に至るまでの総建設費と、評価対象期間内における維持管理費を費用(C)として、それぞれ現在価値化したものを評価することとしている。

#### 2. 費用対効果の算定条件

- ・完成年度 : 平成30年度
- ・ダム事業費 : 45,000百万円
- ・被害軽減額 : 確率規模1/100まで
- ・資産単価 : 平成19年度
- ・評価基準年 : 平成20年度

#### 3. 費用対効果の算定

##### (1) ダムと河川改修による治水便益の配分

- ・堤川全体における年平均被害軽減期待額 = 30,165百万円
- ・駒込ダムによる年平均絵被害軽減額 = 4,062百万円

##### (2) ダムの総便益

評価対象期間内におけるダム分、不特定分の便益を算定し、現在価値化した。なお、ダムの残存価値については、『治水経済調査マニュアル(案)』に基づき便益に見込んだ。

$$B = \text{ダム分の便益} + \text{不特定分の便益} + \text{残存価値}$$

$$= 58,950 \text{百万円} + 16,306 \text{百万円} + 1,740 \text{百万円} = 76,996 \text{百万円}$$

##### (3) ダムの総費用(C)

ダム建設費及び維持管理費を年度別に設定し、現在価値化した。

$$C = \text{ダム建設費} + \text{維持管理費} = 37,292 \text{百万円} + 3,067 \text{百万円}$$

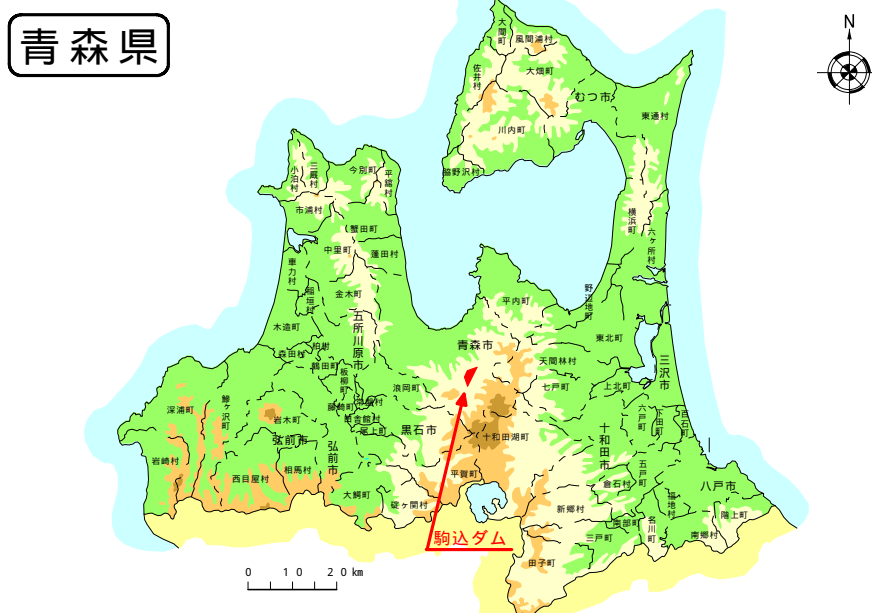
$$= 40,359 \text{百万円}$$

### [費用対効果分析の結果]

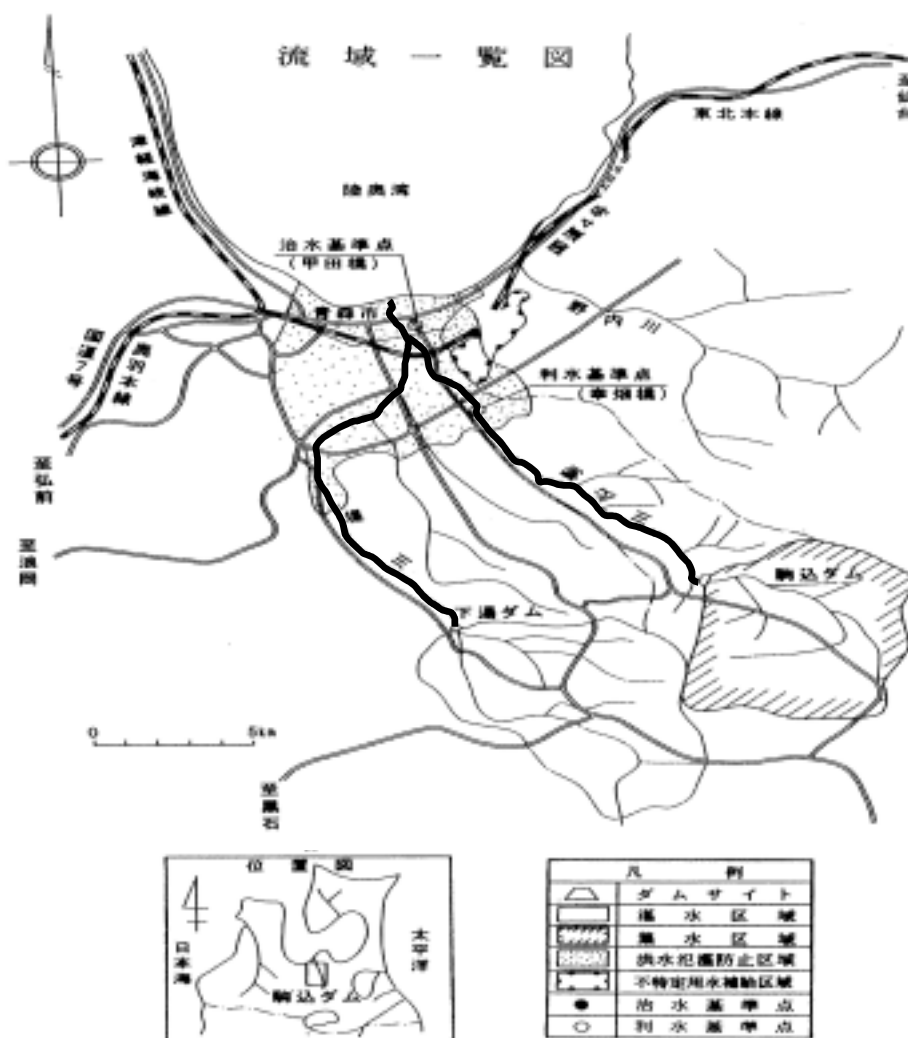
$$B/C \text{ (再評価時点)} = 76,996 \text{百万円} / 40,359 \text{百万円} = 1.91$$

[全体計画図]

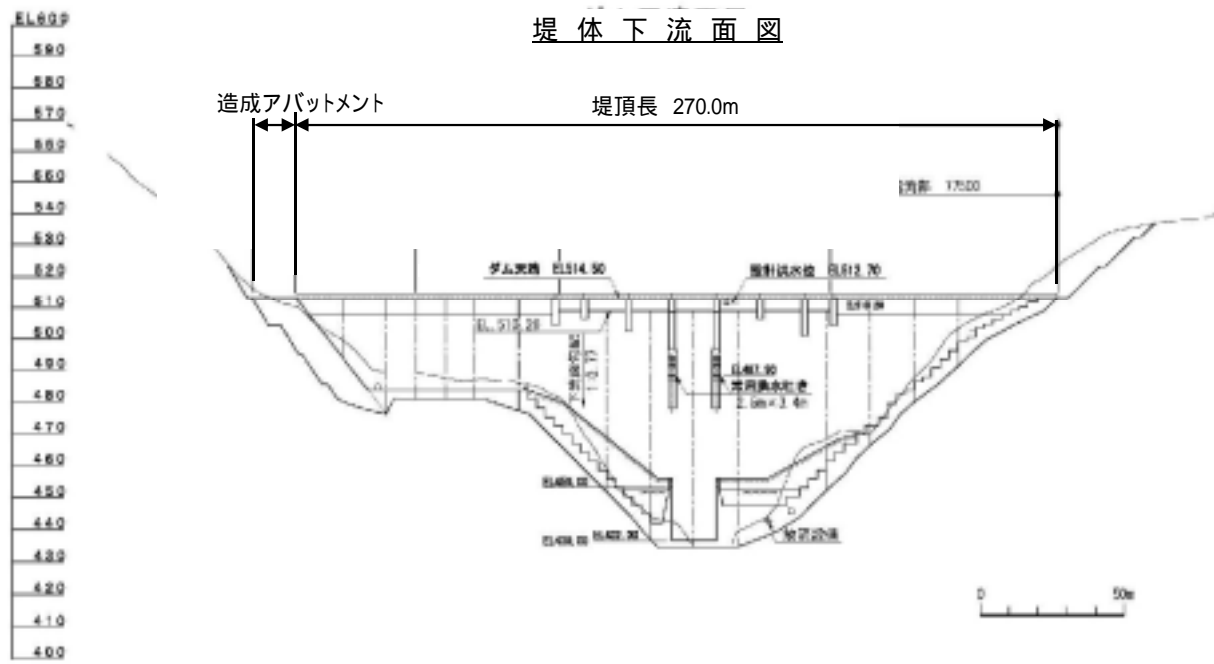
(1) 事業実施箇所位置図



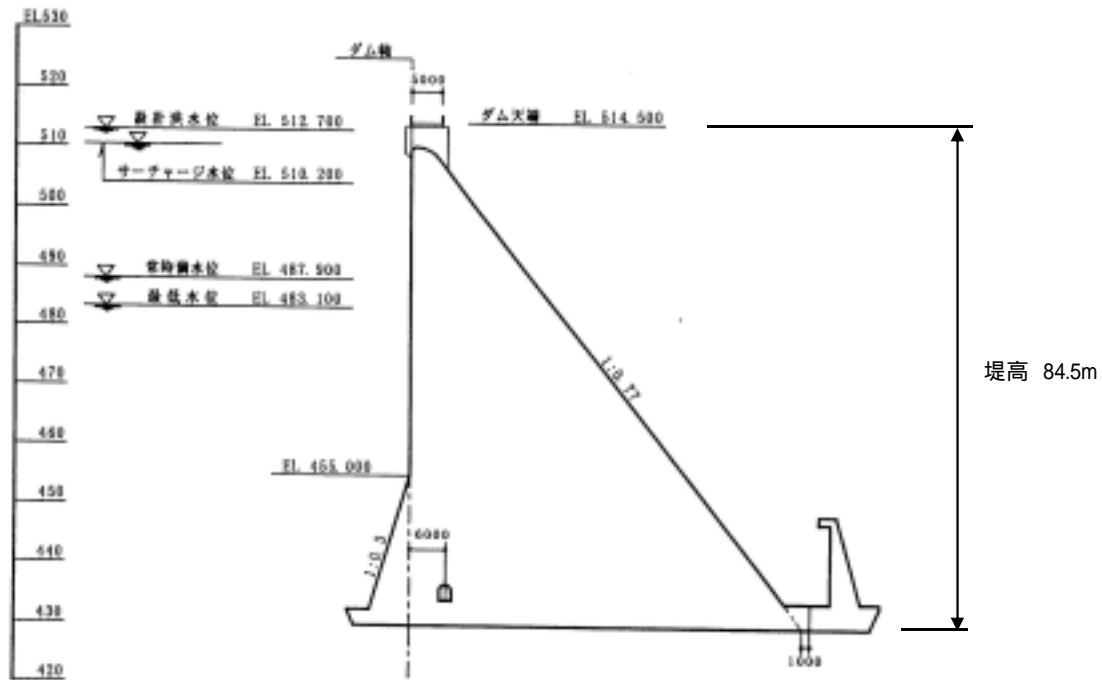
(2) 全体計画平面図



(3) 構造図



**標準横断面図**



駒込ダム計画地



# 駒込ダム治水必要性



昭和44年8月洪水



昭和44年8月洪水



昭和52年8月洪水



昭和52年8月洪水



平成2年10月洪水



平成12年7月洪水

# 駒込ダム治水必要性

## 深夜に濁流の不意打ち



**あつ水だ、逃げろ**  
桜川の新団地は騒然

**キハをむく荒川**  
若者必死、親子救助

**警報前に濁流**

（以下、記事本文の抜粋）

昭和44年8月25日 東奥日報

## 真夜中の集中豪雨

### 台風9号県内に大被害



**軒先まで濁流洗う**  
青森・桜川  
石巻第一陣 一万戸が浸水

**1力漁船33隻流出**  
乗組員のいる船も？

県内のおもな被害

（以下、記事本文の抜粋）

昭和44年8月24日 東奥日報

## 住民に避難命令出す

### 六百七十戸浸水

堤川決壊の恐れ



（以下、記事本文の抜粋）

昭和52年8月5日 東奥日報